

## V 学長諮問委員会

### 学事協議会

#### 1. 構成員

[学長] 井部俊子

[学部長・研究科長] 菱沼典子

[図書館長] 中山和弘

[教務部長] 麻原きよみ

[学生部長] 菱田治子

[研究センター長] 山田雅子

[事務局長] 山口喜義

2010年度前半は麻原教務部長がサバティカルリーブのため高橋教務課長が出席した。

#### 2. 役割

学長の諮問機関として本学の教育運営に係る問題を協議する。(学事協議会規程第1条)

#### 3. 活動内容

2010年度の学事協議会は16回開催された。

主な協議事項

- 1) 2010年度聖路加看護大学活動計画
- 2) 学生数増加への対応について
- 3) インドネシア Islamic University との交流協定締結について
- 4) ウパウパ奨学金規程
- 5) 2010年度創立記念行事、講演会について
- 6) 修士課程の専門領域の変更に関して
- 7) 教員および院生による本学の学生を対象にした調査・研究の申請書について
- 8) 実習室委員会規程について
- 9) 急性期 CNS の申請に関して
- 10) 厚生労働省特別看護師(仮)養成試行
- 11) 実習施設未申請の件
- 12) サバティカル教員の委員会等について
- 13) 教育予算委員会のための教員の枠組みについて
- 14) 学生歌の扱いについて
- 15) 延世大学から学部学生の留学の問い合わせについて
- 16) 客員教授およびその任期更新について
- 17) 聖路加看護大学における国際交流の方向性について

て

- 18) 採用人事・昇格人事
- 19) 大学の将来について
- 20) 2011年度の委員会計画
- 21) 研究室の割り振り
- 22) ミセスセントジョン記念教育基金の採用
- 23) 次々年度以降の人事
- 24) 入学式等の実施について
- 25) 被災状況の把握と対応について
- 26) 災害救援について
- 27) 聴覚障害を持つ入学生への対応について

#### 4. 課題

将来展望を見据えた「学事」事項を計画的効率的に協議していくことが課題である

### 自己評価委員会

#### 1. 構成員

[委員] 井部俊子、菱沼典子(委員長)、麻原きよみ、菱田治子、中山和弘、山田雅子、山口喜義

[書記] 稲田昇三

#### 2. 役割・職務

自己点検・評価の実施と結果への対応を主たる役割とする。年報の作成により、年度毎に自己点検を行い、課題を抽出して大学組織としての改善を図る。また大学基準協会による7年毎の認証評価を計画的に実施する。

#### 3. 活動内容

11回の会議を開催し、以下の内容に取り組んだ。

- 1) 2009年度年報発行(2010年5月)。
- 2) 2009年度年報に記載された各課題を点検し、解決されたこととさらなる検討課題とに分けて検討した。
- 3) 2010年度年報の準備を行った。発行は次年度5月とすること、前年度の課題に対する点検評価を必ず行うこととした。
- 4) 教職員の目標設定とその達成度評価を実施した(資料参照)。

5) 1995年に改訂した現行カリキュラムの10年後のカリキュラム評価の年に当たり、10年目の卒業生と全学士編入生の追跡調査を計画したが、調査の目的が明確でなかったことから、実施できなかった。

6) 大学基準協会からの認証評価に対する評価の調査を受ける予定であったが、3月の大震災のため、次年度に持ち越された。

#### 4. 課題

昨年度の課題に関して、①年報のあり方は方向が定ま

った。②教職員の目標設定とその達成度評価は目標設定をすることと教員間の正規な面談が実施されることに意味があると評価されているが、教職員評価につながるかどうかはまだ課題となっている。

本年度、年報の各部門・委員会が挙げた課題を見直し検討したが、本学の今後の方針と重ねて解決策を計画すべき点が多くあることがわかった。次年度は将来構想委員会が立ち上がるので、課題への具体的な取り組みができるよう、課題の整理が必要である。

卒業生の追跡調査は課題となっている。

#### 5. 資料

2010年度重点目標・達成度評価 評価者および実際のタイムスケジュール

[教員]

評価者		1次評価者		2次評価者		提出先		本人に返却	
		1次評価者		2次評価者		提出先		本人に返却	
教授		学部長		—		学長			
領域の長がいる准教授・助教		領域の長		学部長					
領域の長がいない准教授・助教		学部長		—					
提出期限	年度初めの目標設定	6/4		6/11		6/18		5/10 (次年度重点目標設定時)	
	年度半ばの報告	9/14		9/22		9/30			
	年度末の評価	2011/2/28		3/11		3/23			

[職員]

評価者		1次評価者		2次評価者		提出先		本人に返却	
		1次評価者		2次評価者		提出先		本人に返却	
課長、係長 (課長不在の部署)		事務局長		—		学長			
係長・一般職員		課長		事務局長					
提出期限	年度初めの目標設定	6/4		6/11		6/18		5/10 (次年度重点目標設定時)	
	年度半ばの報告	9/14		9/22		9/30			
	年度末の評価	2011/2/28		3/11		3/23			

### 研究倫理審査委員会

#### 1. 構成員

[委員長] 亀井智子

[委員] 桑原博道 小松康宏 白木和夫 関正勝  
鶴若麻里 廣瀬清人 松谷美和子 森明子 山田雅子

#### 2. 役割・職務

聖路加看護大学研究倫理審査委員会規則に則り、聖路加看護大学研究倫理審査委員会内規ならびに研究倫

理審査委員会小委員会運用細則の第一条(目的)を達成するべく、研究計画の倫理審査を行う。

#### 3. 活動内容

計11回の研究倫理審査委員会を開催し、提出された研究計画書について審査を行った(表1、2)。また、「臨床研究に関する倫理指針」「疫学研究に関する倫理指針」が21年4月施行となったことにあわせ、研究倫理審査委員会規則、および小委員会運用細則の改正、研究倫理審査細則の新規作成、申請書の改正、チェックリストの新規作成を行った。

#### 4. 課題

改正した規則、小委員会運用細則、新規作成した研究倫理審査細則は23年4月から施行となるため、研究者へ周知することが必要である。また、審査申請件数が年間を通じて多くなっている、審査の種類を誤って申

請する、あるいは申請書類内に不備があるなどの申請書が散見されるため、研究者へ啓発を行う必要がある。

本学の教職員、大学院生、研究生が在職・在学中に収集・生成したデータの帰属をどこに置くか、については継続審議となっている。

表1 審査件数

	開催月日	出席委員数	新規申請		期間延長・一部修正等	審査件数
			通常審査	簡易審査		(新規のみ) 計
1	4月20日	8	3	-	3	3
2	5月18日	9	8	-	5	8
3	5月25日	7	8	-	-	8
4	6月15日	8	5	-	2	5
5	7月20日	7	10	1	5	11
6	9月21日	7	17	1	8	18
7	10月19日	9	6	1	1	7
8	11月16日	9	7	-	2	7
9	12月21日	8	7	-	2	7
10	1月18日	9	7	-	2	7
11	3月15日	8	7	3	5	10
計			85 〔内訳〕 教員：29 博士前期：33 博士後期：21 その他： 2	6 〔内訳〕 教員：3 博士前期：3	35	91

表2 審査結果

審査結果	承認	条件付き承認	保留	簡易審査不適格
通常審査	73	10	2	-
簡易審査	5	-	-	1
計	78	10	2	1

## 人権委員会

### 1. 構成員

[委員長] 田光信幸（日本聖公会東京教区、聖マーガレット教会司祭）

[委員] 松谷美和子(研究科委員会)、森明子(研究倫理審査委員会)、菱田治子(教授会)、岩間節子(評議員会)、細谷亮太(聖路加国際病院)、

[事務局] 稲田昇三(総務)

### 2. 役割

人権委員会規程第2条

1) 本学におけるセクシュアル・ハラスメントやアカデミック・ハラスメントおよびその他学習・研究・労働に関連して教職員、学生および研究者等に生じる権利・利益に関する諸問題に関する事項を審議すること

2) 本学における学内人権事項に関する苦情を受け付け、対応すること

3) 本学における学内人権事項に関する必要な措置を学長に具申すること

4) その他、本学における学内人権事項の解決のために必要な事項を実施すること

### 3. 活動内容

委員会開催

今年度は申立がなく、委員会の開催はなかった。

### 4. 課題

人権委員会規程に付随して、学内人権事項に関して申し立てる方法について「運用細則」を定め、申立の様式も明示している。また「ストップ・ハラスメント!」と題するリーフレットを新入学生・教職員に配付している。しかし、2004年に委員会が設置され「申立」の受け入れを開始したが、申立の実績は過去に1回2件のみである。学生・教職員の相談窓口は、学生部の「よろず相談」、健康管理室での相談やカウンセリングなどが準備され、また個別の教員への相談も行われているが、訴えを持ち込む「裁定」を行う機関として存立の意義を確立していかなければならない。

### 5. 参考データ なし

## 発明委員会

### 1. 構成員

[委員長] 山口喜義

[委員] 井部俊子

[事務局] 田口 瞳

### 2. 役割・職務

聖路加看護大学発明規程

職務発明等の知的財産権継承の可否および出願手続きに関する審議決定

### 3. 活動内容

発明等の届け出があれば速やかに委員会を開催し、知的財産権継承の可否および出願手続きの可否および出願手続きの審議を行っている。

### 4. 課題

発明、実用新案等に該当するかどうかの事前相談について、他大学の実績を調査して候補特許事務所案を選んでいるが、今年度は相談がなかったため特許事務所との交渉までは至っていない。

### 5. 参考データ

知的財産継承件数	発明	3件
	実用新案	2件

## 大学マネジメント検討会

### 1. 構成

[委員長] 井部俊子学長

[委員] 各委員会委員長、事務部門課長

### 2. 役割(規程)

前年度までの「委員長・部課長会議」においては、各委員会、事務部門各部課での活動や問題点について相互の理解を深める機会としたが、その活動を引き継いで同じメンバーで各部署の問題点について、学内各組織のリーダーが一堂に会し幅広く意見交換する会とすることを目的とした。

### 3. 活動内容

1) 隔月で6度の検討会を開催した。

第1回2010年5月25日

- ① 広報戦略について ② チーム医療推進について ③ 大学マネジメント検討会の位置づけ

第2回7月27日

- ① 情報システム委員会「プリント枚数意識化プロジェクト」について ② 危機管理委員会からの検討課題 ③ 特定看護師(仮称)モデル事業の申請について

第3回9月28日

- ① 学生のプリント枚数意識化プロジェクトについての報告 ② 安否確認システム導入についての報告 ③ 聖路加国際病院の合同防災訓練についての報告 ④ 学士編入の入試での出題ミスについて ⑤ 募金活動推進委員会の機能について

第4回11月30日

- ① FD/SD 研修会についての報告 ② 2011年度予算編成方針について

第5回2011年1月18日

- ① 2011年度教育予算の内容と課題 ② 増収および経費削減、人事施策に関わる経理課からの提案

第6回2011年3月22日

- ① FD/SD 委員会からの提案 ② 災害対策に関する意見交換

#### 4. 課題

大学マネジメント検討会は本年度で活動を終わり、その活動目的はFD/SD委員会に受け継ぐ。

#### 5. 参考データ なし

### 奨学生選考委員会

#### 1. 構成員

[委員長] 菱田治子

[委員] 井部俊子、菱沼典子、麻原きよみ、天岡幸(学生課)

#### 2. 役割・職務

聖路加看護大学奨学生選考委員会規程より選考委員会は下記について審議する。

- 1) 学校法人聖路加看護学園貸与奨学金の奨学生の選考および貸与奨学金の運用
- 2) 独立行政法人日本学生支援機構の奨学生の選考
- 3) 独立行政法人日本学生支援機構大学院第一種学資金返還免除候補者の選考
- 4) その他の奨学生の選考  
(奨学生選考委員会規程第3条)

#### 3. 活動内容

計7回の委員会を開催し、提出された各奨学金申請書について選考した(資料参照)。委員会開催回数を効率化するため、スケジュール調整を行い昨年度より開催数を減らした。また、2011年1月21日(金)創立記念行事にて奨学金給付者と奨学生との懇談会を設け実施した。

#### 4. 課題

聖路加看護学園貸与奨学金資金が貸与者増加のため、減少している。資金確保の必要がある。

## 5. 資料

開催日	選考奨学金名	申請人数	推薦決定人数	
1	4/27	茂木本家教育基金	2	1
		丸和育英会	4	2
		高島君子記念看護奨学金	2	1
		岡村育英会	10	10
		守谷育英会	6	1
2	5/18	東京都看護師等修学資金	8	8
		日本学生支援機構学部定期採用	19	16
3	6/ 8	日本学生支援機構大学院定期採用	17	14
4	7/ 6	小澤道子記念奨学金	3	3
		聖路加同窓会奨学金	3	1
		聖路加看護学園貸与奨学金	8	8
5	7/27	ウパウパ奨学金	3	3
		有馬育英会	5	2
		青木奨学金	5	3
		聖路加看護学園貸与奨学金緊急採用	1	1
6	10/26	未来の助産師基金	4	2
		日本学生支援機構 特に優れた業績による返還免除候補者推薦(選考方法について)		
7	3/22	日本学生支援機構 特に優れた業績による返還免除候補者	6	4

## 危機管理対策委員会

### 1. 構成員

[委員長] 山口喜義

[委員] 井部俊子、菱沼典子、菱田治子、山田雅子、進藤務

### 2. 役割・職務（聖路加看護大学危機管理規程）

- 1) 危機管理に関する対策の検討・実施
- 2) 緊急時の対策本部機能を担う
- 3) マスコミ対応が必要な場合の措置

### 3. 活動内容

- 1) 消防計画の検討・作成
- 2) 防災マニュアル(学生版・教職員版)の検討・作成
- 3) 新型インフルエンザ等の感染症対応策の検討・実施
- 4) 災害用備蓄品の検討・整備
- 5) 非常持ち出し書類、重要保管書類の確認

### 6) 安否確認システムの導入検討

#### 4. 課題

3月11日の東日本大震災により、帰宅困難者の学内宿泊、交通機関再開時の大混雑、徒歩帰宅の困難などを実際に体験。今後は、これらを反映した防災マニュアルや備蓄品の見直し、書棚転倒防止措置、安否確認システムの導入、休日夜間の危機管理体制整備等、より実効性のある対策の検討と実現が課題である。

#### 5. 資料

##### 非常用備蓄品

本館地下倉庫 水ペットボトル1200本、乾パン228缶、簡易トイレ5個

2号館地下倉庫 水ペットボトル192本、乾パン488缶、簡易トイレ2個、寝袋20個

※3月の地震による帰宅困難者学内宿泊時に水ペットボトルと乾パンを使用。補充手配中。